

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山東部小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A, 理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B, 理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 国語A

- ・全領域において、これまでの学習内容を理解し、基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。語句の意味を理解し正しく使うことや漢字の書きがよくできていた。

2 国語B

- ・全領域において、これまでに学習した内容を活用することができている。相手や目的・場面や状況に応じて話したり聞いたり書いたり読んだりする力を身につけている。「書くこと」の領域で、書く条件が与えられたとき条件に合うように書くことに課題が見られた。

3 算数A

- ・「数と計算」「図形」「数量関係」の領域において、これまでの学習内容を理解し、基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。式の意味を正しく読み取ったり計算を正確にしたりすることができていた。

4 算数B

- ・全領域において、これまでに学習した内容を実生活の中で活用する力を身につけている。式や図が表している内容を読み取ったり筋道を立てて考えたりすることができている。複数の観点から読み取ったメモとグラフを関連付けて考え説明する問題のみ誤答であった。

5 理科

- ・これまでの学習内容の基礎的・基本的なことを確実に理解している。実際の自然や日常生活などで活用する力も身につけている。実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することができていた。ろ過するときの器具の適切な操作方法の理解が十分ではなかった。

6 国語科における学力向上に向けての取り組み

【学校では】

- 朝の読書や読み聞かせ、各学級での読書指導を更に推進して、読書習慣の形成を図るとともに語彙力や思考力を高めることを目指します。
- 授業をはじめ、スピーチタイム、その他の行事の中で発表の場を設け、相手の話を受けて自分の意見や考えを表現できる力の向上を図ります。多人数の中でも臆することなく意欲的に活動する児童を育てていきます。
- 授業の初めに見通しをもたせる活動、終わりに学習したことを振り返る活動を取り入れ、学習の定着を図ります。

【ご家庭では】

- 語彙が増えることは、ものを考えるときの手助けになります。また、自分の気持ちをより正確に伝えるときの手段になります。お子様の語彙を増やすために読書の習慣をつけさせましょう。一緒に読書をする 것도効果的です。
- お子様と会話を楽しみましょう。新聞記事やテレビニュースから話題をあげ、自分の考えを話したりお子様の考えを聞いたりしましょう。共感したり根拠を尋ねたりしてお互いの考えを交流しましょう。
- 中高学年では、生活の中で分からない言葉に出会った時に、辞書を引く習慣をつけさせましょう。語彙力が高まり自分の思いを表現する力を伸ばすことができます。

7 算数科における学力向上に向けての取り組み

【学校では】

- 授業の中に「めあての提示」「自力解決」「考えの交流」「振り返り」を仕組み、学びを確かなものにしていきます。
- 一人ひとりの学習状況を確実に把握し、個に応じて基礎基本習得のための補充学習と活用力向上のための発展的な学習を取り入れていきます。
- 朝のスキルタイムでは、計算の練習を継続することで、計算力の向上を目指します。
- 自学を充実させ、「自分の得意な分野を伸ばす」ことや「苦手な分野も改善する」ことを意識させ、自分に必要な学習に取り組むことができるよう指導していきます。

【ご家庭では】

- 算数で学習したことを生活に生かすようにさせましょう。「買い物で場面代金・おつり・割合(%引き)」「おかし数えでかけ算」「料理で重さ・かさ」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」「ドライブで速さ・時間・道のり」等、身のまわりには、算数が使えるものがたくさんあります。生活の中で、算数を使うことで算数が好きになると考えられます。

8 理科での学力向上に向けての取り組み

【学校では】

- 児童が主体的に観察や実験をすることができるようにするために環境の整備を推進します。
- 理科の学習で得た知識を日常生活に当てはめて考えるようにします。
- 実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを発言できるようにします。

【ご家庭では】

- 子どもが理学的なことに興味・関心をもったときに、それにつきあったり、理解を示したりする大人や家族がいることは、理科好きな子に育つことにつながります。お子さんが科学や自然について疑問をもち、その疑問について質問したり調べたりするときには、ぜひお子さんといっしょに考えたり、調べたりしてください。

9 生活習慣や学習習慣に関する調査(児童質問紙から抜粋)

生活習慣でよくできていること

- 朝食を毎日食べること。
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ること。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きること。
- 家の人と学校の出来事について話すこと。
- ※ 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムができている。家の人との会話も良好である。これらは、家庭の協力によるものである。

学習習慣でよくできていること

- 家で学校の宿題をすること
- 自分で計画を立てて勉強をすること
- 学校の授業の予習・復習をすること
- 学校の授業時間以外に、2時間以上読書をする。
- ※ 家庭学習は、宿題だけでなく自分で計画を立て、予習・復習・テスト勉強をすることができる。読書習慣も身につけている。

10 生活習慣や学習習慣での今後の取り組み

【学校では】

- 朝の時間や学級活動の授業でソーシャルスキルトレーニング(良好な人間関係をつくり保つための知識と技術を身につける練習)を継続して取り入れます。子ども達が人と上手に関わり、自己有用感や自己肯定感を高めることができるようにします。
- 東部っ子学習の約束を子ども達に意識させたり、自分の生活を振り返らせたりすることを継続して行います。

【ご家庭では】

- 「自分は家族から愛されている。」「自分は家族の役に立っている。」という思いが、お子様の自己肯定感や自己有用感を高めます。小さな事でも認め、褒め、そのことをよろしければ学校にもお伝えください。
- 学習時間を確保してください。10分×学年+30分(宿題や自学・読書等を含む)がめやすです。
- 子どもが勉強している時は、テレビを消す等、落ち着いた学習環境を整えてください。